

英国人氣質と英単語 ‘Can you put up with it?’

どんなに日本好きな私であっても、正直、イライラすることはあります。なかでも、誰もが知っているJRの大きな駅ホームで鳴り続ける単調な音の発車メロディー……。日本の鉄道網の効率性や、清潔さ、正確さは尊敬に値しますが、特に、休日前(私の週末は日曜と月曜)の寒い冬の土曜の朝、やっと仕事へ向かう自分にとって、車両の中にも、自分だけの居心地のいい空間を打ち破って飛び込んでくる安っぽく陽気なメロディーには耐えられません。しかし、英国人としてベストを尽くして、“put up with it (我慢)”しています！

そんな“put up with ~ (～に我慢する)”というフレーズに関連して、今回は、英国の旅で知っておくと便利な、英国人氣質や英熟語についてご紹介します。

英国人は日本人のように、我慢強い国民として知られています。私たち英国人は不平をいうことは、最終手段と考えているので、あまり好んでは言いません。実際、不平を言うときも、‘I’m sorry but……(申し訳ないのですが、、、)’といった謝罪のフレーズを前置きにすることから分かるように、まるで自分が悪いことをしているかのような表現を使います。

“To put up with (something)”というフレーズは、句動詞として有名です。句動詞は、文脈から意味を推測するのが難しいのですが、前置詞にヒントがあり、“To put up with (something)”でいえば、肯定的な意味があるUPが句にポジティブな意味合いを加えています。UPを含む他の句の例をみると、

dress up – put on your best clothes 着飾る／ドレスアップする

tidy up – make the room look respectable きれいに片付ける

cheer up – stop looking so miserable 元気づける／元気になる(ちなみに、スコットランド出身者で、生まれつき暗い顔(?)をしている私は cheer up と一日に10回ほど言われます……。このこと自体にもイライラしますが、“put up with it (我慢)”しています。)

この我慢強い英国人氣質を表した控えめで慎み深い表現はその他の英語表現にもあります。例えば、英国人が私生活について聞かれると、一般的には、‘I can’t complain.(順調です)’ や、もっとカジュアルに‘mustn’t grumble(まあまあかな)’ といった控えめな表現にとどめるなど。

これらのことから、英国は旅行するには、とても心地よく、对人的なストレスの少ない国ということが少しお分かりいただけたのではないのでしょうか？ 旅行中、怒ったり当惑させられるシーンにはあまり遭遇ないでしょう。ちなみに、地下鉄は、東京ほど効率は良くありませんが、発車メロディーの騒音とは無縁で、皆、辛抱強く列に並んでいます。

句動詞にご興味ある方は是非、こちらをどうぞ！

http://www.bbc.co.uk/worldservice/learningenglish/radio/specials/1715_faceup/page40.shtml

Written by Philip Patrick

Copyright © British Council, All right Reserved.